

第九回良寛・国上寺全国俳句大会

ジュニアの部

大賞

敗報や花火の塵に触れてゐる

鶴見大学一年 藤井海人

〈選評〉 何の試合か分からないが、敗けの知らせが入ったとき、連絡を受けた仲間（もしくは作者）は花火の塵につまらなそうに触れている。惜しき、やるせない気分だったのだと思われる。その些細な指先に感情の起伏を表そうとしている。秀吟。

入選

路線図の果ての菜の花畑かな

名古屋高等学校三年 牛田大貴

〈選評〉 路線図という平板な無機質な印刷物の中に、忽然と菜の花畑が現れるような錯覚を得る。

風鈴や一人身迎える「おかえり」と

村上桜ヶ丘高等学校二年 細野あこ

〈選評〉 一人暮らしの身には「おかえり」と言ってくれているような風鈴が同居者のよう。中七でなく中八が少々残念。

あの蛍いつから我家にホームステイ

村上桜ヶ丘高等学校三年 海沼莉奈

〈選評〉 蛍かごに入った蛍を言うのだろうが、ホームステイと言ったおかしき。でも直ぐに死んでしまう身。

扇風機周りに集まる宇宙人

村上桜ヶ丘高等学校三年 山田健太

〈選評〉 最新の羽のない扇風機に不思議がつて集まる宇宙人？それとも風に因って言葉が変形する↓宇宙人の言葉（音声）に見立ててのことか？私は前者かと思う。

少年の日焼けの胸に手術痕

新潟大学四年 宇佐美友海

〈選評〉いたいけな少年の胸の傷。少々同情の目を以て他者は見るが、当事者はいたって平気な振る舞いをする。

離岸流戻りたくても戻れない

村上桜ヶ丘高等学校三年 渡邊寛大

〈選評〉海岸から沖へ向かう水の流れ（事故の原因になる）自体が戻りたくても戻れないと言っているよう。

梅雨の日は二つの影が近くなる

村上桜ヶ丘高等学校三年 島田瑛莉菜

〈選評〉暗に二人で一つの傘をさして行く相合傘のことを言っているようだ。多感で憧れ多き時代の句。

風鈴の音色が心に風通す

村上桜ヶ丘高等学校三年 高橋北斗

〈選評〉風鈴と風は昵懇だが、音色を媒介として心に風を通すと仕立て直した妙。

一発上がって誰の目の中も花火

新潟県立巻高等学校二年 狩野駿斗

〈選評〉マルチビジョンのようにどの人の眼の中にも同じ花火が開花する。その瞬間を見逃さずに書いた。

後輩の口調が変わる夜店かな

名古屋高等学校一年 木村功汰

〈選評〉今までの口調がへりくだるのか、乱暴になるのか？ちよっと大人びる夜店での人間関係。

投句作品集

蛇や糺の森の陽の白く

京都教育大学二年

渡邊玉貴

眠気やけに無き夏至の日の葬式

京都教育大学二年

渡邊玉貴

ハンカチの折り目正しきまま遊ぶ

京都教育大学二年

渡邊玉貴

夏至の日の逆光青き高野山

京都教育大学二年

渡邊玉貴

ランドセル投ぐ六度目の春雲へ

名古屋高等学校二年

難波朔矢

オリブの葉の校章や風光る

名古屋高等学校二年

難波朔矢

清拭や夏帽の子を追ひ出して

名古屋高等学校二年

難波朔矢

駅ぢゆうに陶の風鈴夜の風

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

五十嵐優菜

星空の中にきらめく咲く火花

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

五十嵐優菜

太陽がまぶしく映る夏の海

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

五十嵐優菜

向日葵のように輝く君の笑み

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

五十嵐優菜

虹かかる空の先には幸せが

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

小田 望

星のよに夜道に輝く蛍たち

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

小田 望

金魚鉢映った顔に苦笑い

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

加藤実結

暗い海クラゲは一人かくれんぼ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

加藤実結

火花見て心の花も開花する

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

長 隼翼

炎天下暑い真昼のグラウンド

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

長 隼翼

夏休み白球追う青い空

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

長 隼翼

おはよーいつも聞こえる弁当屋

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

鳥井優樹

火花背に君に伝えるこの思い

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

鳥井優樹

海の声浜辺に響きいと涼し

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

佐藤 一

花氷課題とともに解けていく

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

佐藤 一

朝顔と朝日とともに起き始め

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

佐藤 一

失恋しぼくの気持ちも衣更え

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

佐藤 一

死に近く恐れ必死に蟬ないた

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

佐藤 一

七夕であえないきよりは六センチ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

相馬尚利

いつかしら虫さんたちの夏休み

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

相馬尚利

橋の上火の玉みつけ肝試し

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

相馬尚利

木じゃないよコンベニっどうカプトムシ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

相馬尚利

水打ちて高い空へと虹かかる

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

相馬尚利

肝試し強がりの指離れない

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

藤田康誠

雨蛙ないて喜ぶ空の水

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

藤田康誠

向日葵や太陽目指すあこがれて

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

藤田康誠

落日に染まる青葉の影細く

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

藤田康誠

夏の空一夜限りの花畑

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

本間滉大

向日葵が空に向かい満開笑顔

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

ラムネ瓶のビー玉が鳴る下駄のよう

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

日が落ちて背中びっしり肝試し

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

カプトムシ夜中になると動き出す

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

ゴキブリが寝所進撃母騒ぐ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

梅雨明けで気温の変化早退だ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

セミのごと掛け声止まぬ部活動

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

ほんのりと明るく空に朝の顔

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

嬉しさに浴衣ゆれたり蝶のごと

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

バーベキューじりじり焼けてはしゃぐ夏

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

帰り道ほのかに香る夏みかん

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

蛍火にまぎれて飛ぶ火あの人か

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

煩いの声に応えず歌う蝉

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

空浮かぶアイスクリームバナラ味

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

ケンカ後の二人で分けたさくらんぼ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

風鈴や一人身迎える「おかえり」と

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

熱帯夜床で寝そべる我と猫

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

セミしぐれポーツとさせる魔法の音

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

セミのよに僕の命は一週間

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

入道雲きれいだけど後にあめ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

都会ブーン田舎ゲコゲコ熱帯夜

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

甲子園涙染み込むグラウンド

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

せみ時雨泣く妹の子守歌

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

暑い夏冷たいものを食べまくる

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

教室のクーラーガンガンしあわせだ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

阿部羽玖

夏の夜寝ても目覚めて寝不足に

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

増子隆太

夏休みまでよ本日最終日

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校二年

佐藤亜美

夏休み乗るのが怖い体重計

風呂入り体ふいたが汗まみれ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

中山裕希

日焼けした肌が真っ赤でヒリヒリです

いつもより早くに起きる熱帯夜

水風船買ったはいいがどうしよう

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

海沼莉奈

あの蛍いつから我家にホームステイ

青梅をひと口かじって後悔す

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

海沼莉奈

遠くから走って追うが逃げる水

花水やつととかれた花およぐ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

楠田雅宮

朝起きてきこえてきたのセミの声

肝試し体感温度冬の様

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

楠田雅宮

カプトムシ木の上のぼりとって来た

あつい夏アイスクリーム倍うまい

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

富樫鈴奈

かき氷色とりどりで写真映え

暑い夏球児がくる甲子園

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

富樫鈴奈

毎朝のラジオ体操たのしいな

浴衣着て蝉の声聞く夏祭り

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

中山岳人

外灯の照らす木の下カプトムシ

君を待つ強い日差しと向日葵と

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

中山岳人

熱帯夜眠れず一人星を見る

うらやましいメダカの学校涼しそう

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

小田有成

暑いからポテチがこいしいこの季節

夏だからやる気がでない暑いから

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

小田有成

かき氷いっぱい食べた暑いから

あああああわわわわわわせんぼうき

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

小林春菜

猛暑から玄関開けて南極へ

浴衣着て魔法にかかる夏祭り

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

小林春菜

親友と暑くて顔がさくらんぼ

蚊帳の外旅行の話は進路の話へ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

島田蒼士

夏休み日記地獄の最終日

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

増子和波

かき氷今年もうれしいオンシーズン

小学生ラジオ体操はげむ夏

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

南 幹太

日焼け止め塗っているのに日焼けする

太陽と君の笑顔をまちがえた

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

南 幹太

中庭のセミの声が響く昼

太陽の下で遊んだ焼けた肌

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

南 幹太

金魚鉢中の金魚も熱中症

窓明けて虫の音告げる秋近し

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

山崎かほる

赤黒の衣装をまとう金魚かな

夏祭り想いを夜空に打ち上げる

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

山田健太

夏の夜に静かに飛びかう蛍かな

授業中聞こえてくるのは蝉の声

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

山田健太

散ってゆく線香花火は恋のよう

扇風機周りに集まる宇宙人

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

渡邊寛大

風鈴の音に誘われ夏が来る

暑い夏乾いたのどに麦茶入れ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

渡邊寛大

扇風機暑すぎ意味ない中と弱

離岸流戻りたくても戻れない

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

増尾江梨花

お盆のねお墓参りにやる花火

ミンミン聞こえると夏やって来た

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

石井若菜

どうして夏のアイスはやめられない

砂浜の足跡きつと思いい出に

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

石井若菜

夏の夜テレビよりも空を見よう。

日焼けした肌を毎日スキンケア

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

石井若菜

朝顔の種を集めてまた来年

カプトムシ君もプールに入りたい？

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

堀 芽生

大合唱今年誰が一番か

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

堀 芽生

前進む君の瞳はラムネ色

青世界私の色に染めてゆく
向日葵よ夜の泣き虫どこいった
暑い夏向日葵さえも泣いている
梅雨が過ぎアサガオ散りゆきひぐらし
目を細め入道雲からのぞく目を
空に浮くアイスクリーム夏かんじ
早朝にラジオ体操通う日々
ハンモック揺られるうちに夢の中
消えそうな線香花火消えるかな
我先に歌うよ歌う蝉の声
青い空見上げる横顔向日葵ね
外からのせみの声きく部屋の中
いつもより日指しが強い帰り道
風鈴の音でも涼まぬ夏の夜
朝夕と白く輝く海の砂

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 堀 芽生
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 五十嵐萌華
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 池田麻里亜
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 大滝智春
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 大瀧風太
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 中山葉月
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 本間円香
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 阿部達也
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 大滝真子
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 佐藤はるか
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 島田真奈美
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 鈴木敦也

夏休みボーツと過ごした一ヶ月
勉強をしようしようとか一ヶ月
浴衣着て夏のお祭り行きたいな
暑い日にプールに入り涼みたい
夏になり冷たいラムネが飲みたいな
朝起きてラジオ体操行く子供
海はいり海月に刺され大騒ぎ
朝になり朝顔の笑顔輝かしい
朝早起優雅に踊る風鈴よ
向日葵と爪先立てて背比べ
蛙道蛩が照らす街灯かな
夏の夜ポツンと緑光る明り
冷やし中華始めましたと店にはる
打ち水し気持ちまぎらす昔の知恵
今みない蚊帳で寝る子どもたち
肝試し帰りに見えた白い影
夏休み早起きをしてラジオ体操
扇風機送る風は熱風だ
快晴で必要になる傘はなに
夏の日日は日差しと常にかくれんぼ
平成の最後の夏を楽しもう
かき氷頭が痛いひしひしと
扇風機涼みながら回りたい
夏祭りてんでこまいは売り手さん
向日葵の笑顔に揺れる恋心
空に咲く大きな花を君と見る
熱帯夜暑くてなかなか寝つけない
梅雨の日は二つの影が近くなる
向日葵が太陽の方向向いている
昼寝して日差しが暑く目が覚める

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 鈴木敦也
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 遠山美空
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 細野遙菜
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 米野響子
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 渡邊詩織
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 齋藤飛鳥
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 富樫南智
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 中川暖己
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 本間 優
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 島田瑛莉菜
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年 佐藤瑠花

炎天下走れと命じる鬼教師

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

高橋北斗

風鈴の音色が心に風通す

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

竹内 輝

熱帯夜素麺を食べて夏気分

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

河内 有紗

波の音友達の声かきつけた

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

河内 有紗

蝉の殻輝く目で見せた男の子

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

河内 有紗

雨上がり水面に写る青い空

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

河内 有紗

風鈴の音風を知らせ暑さあげ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

園部 朱里

浴衣着て見た目もしぐさもしゅんとする

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

園部 朱里

向日葵はいつも太陽と見つめ合う

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

園部 朱里

夏至の日はなんだか得したい気分

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

園部 朱里

暑さなど感じさせないアゲハ蝶

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

鍋倉 辰也

空に咲くぱっとはじける火花たち

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

鍋倉 辰也

寄って来た蜜の香りにカブトムシ

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

鍋倉 辰也

暑い夏ドアを開けると冷蔵庫

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

鍋倉 辰也

夏近く好かれ始める扇風機

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校三年

鍋倉 辰也

野球部の補欠部員の日焼かな

山形市立商業高等学校三年

佐藤 美聖

駅中の店匂ひ立つオーデコロン

山形市立商業高等学校三年

佐藤 美聖

残雪の茶色流るる車窓かな

山形市立商業高等学校三年

佐藤 美聖

夏の在トラックばかり走りをり

新潟県立巻高等学校二年

狩野 駿斗

蛇のやうな紐のやうな棒のやうな

新潟県立巻高等学校二年

狩野 駿斗

一発上がって誰の目の中も火花

新潟県立巻高等学校二年

狩野 駿斗

草いきれの中童心さまよへり

新潟県立巻高等学校二年

狩野 駿斗

汗拭う汗拭う汗拭う汗

新潟県立巻高等学校二年

狩野 駿斗

予備校はビルに埋もれて大西日

名古屋高等学校二年

原田 駿

滴りを掬ひて細き手首かな

名古屋高等学校二年

原田 駿

駅前のビューティーサロン油照

名古屋高等学校二年

原田 駿

青大将ちひさき家の広き庭

新潟大学四年

宇佐美 友海

少年の日焼けの胸に手術痕

新潟大学四年

宇佐美 友海

向日葵の鬚りを真中に集めをり

名古屋高等学校一年

木村 功汰

後輩の口調が変わる夜店かな

名古屋高等学校一年

木村 功汰

食堂の軟風薫る扇風機

名古屋高等学校一年

木村 功汰

ただ一人柔らかな口冷房機

名古屋高等学校一年

木村 功汰

朗らかに笑ふ眼鏡は四月馬鹿

名古屋高等学校一年

木村 功汰

空襲の空のあをくて落椿

名古屋高等学校一年

木村 功汰

敗報や花火の塵に触れてゐる

名古屋高等学校一年

木村 功汰

漣は船連れてくる夏帽子

名古屋高等学校一年

木村 功汰

組み立てし屋台や金魚せはしなし

名古屋高等学校三年

細井 淳平

おくるみや春の眠りを包みをり

名古屋高等学校三年

細井 淳平

春眠やクロワッサンはべったんこ

名古屋高等学校三年

細井 淳平

方丈の反り美しき桜の実

名古屋高等学校三年

細井 淳平

まるやかに子を抱くマリア桜の実

名古屋高等学校二年

塩崎 達也

鬼百合は清き目をして夜を迎ふ

名古屋高等学校二年

塩崎 達也

水銀は清きほのほよ夏の雨

名古屋高等学校二年

塩崎 達也

巖頭の顎から首へ滴れる

名古屋高等学校二年

塩崎 達也

胡瓜採る三枝の椅子の軋みをり

名古屋高等学校三年

牛田 大貴

川幅は雉の一声くらゐなり

名古屋高等学校三年

牛田 大貴

水になりきれず白魚と成りにけり

名古屋高等学校三年

牛田 大貴

路線図の果ての菜の花畑かな

名古屋高等学校三年

牛田 大貴

終点へゆくさびしさも夏帽子

名古屋高等学校三年

牛田 大貴